

○議長（中村 敦） 日程により、昨日に引き続き一般質問を行います。

質問順位 5 番、1 つ、小・中学校の英語教育の推進について、2 つ、学校トイレの快適化について、3 つ、学校体育館の空調化について、4 つ、9 月一般質問の新年度への進展について。

以上 4 件について、8 番 楠山俊介議員。

〔8 番 楠山俊介議員登壇〕

○8 番（楠山俊介） おはようございます。清新会の楠山でございます。議長の通告に従いまして、一般質問をいたします。質問の内容を 4 項目に大別し、要望、提案を踏まえ質問をいたします。

第 1 項目として、小・中学校の英語教育についてお聞きいたします。

2020年に小学校で、2021年に中学校で、2022年に高等学校で新しい学習指導要領が適用され、その変革の一つとして「英語教育改革」が実施されました。日本の英語教育は高校受験、大学受験を目的とした、「読み・書き・文法的な正しさ」の追求に偏重し、本来の「コミュニケーションツール」として「使える」英語力の習得には重きが置かれず、結果的に学校での英語教育が日本人の英語力、英会話力の低さの原因になっていると言われています。

グローバル化が進み、英語は国際共通語として世界の人々とコミュニケーションや情報を受信・発信するためのツールであり、そのために「聞く・話す・読む・書く」の 4 つの技能をバランスよく身につけること、「使える」英語を身につけることが必要であるとの方針での今回の英語教育改革であります。そのために、小学 3、4 年生で年 35 単位時間、週 1 コマの英語活動として、「英語に親しむ」を目的に、コミュニケーションを重視した経験を通じて聞く力や話す力を養い、小学 5、6 年生で年 70 単位時間、週 2 コマの教科授業として英語科が必修となり、英語によるコミュニケーションスキルの基礎を養うことを目的に、より実践的な会話を中心とした内容になっているとのことです。

中学校では、英語の授業は基本的に「全て英語で行われる」ことになり、対話的なコミュニケーションをより重視しながら、「聞く・話す・読む・書く」の 4 つの技能を総合的に学び、内容も高度になっているとのことです。私たちの世代はもとより、今の子供たちの親世代においても、中学校 3 年間、高校 3 年間の英語教育を受けながらも、多くが英会話ができない状況にあり、「英会話ができたら」と憧れる状況です。子供たちにはぜひとも英会話を習得してほしいと願い期待する状況です。

下田市はグローバル C I T Y をテーマにまちの魅力化、教育の魅力化がスタートしました。

グローバルはグローバルとローカルの融合です。グローバルの国際共通語は英語です。開国のまち、黒船祭開催、国際姉妹都市ニューポート等の国際交流が盛大です。

12月に頂きました下田市教育委員会報告書にも、「開国のまちの特色を生かして国際的なコミュニケーション能力を身につけます」との目標として「英語力向上推進プロジェクト事業」、「英語検定受験推進事業」等が行われています。また、半世紀以上前から下田のファン、下田の海のファンとして多くの外国人の方々が定住、二居住、旅行で下田ライフを楽しみ市民との交流を楽しんでいます。このような状況、このような環境のまち下田市において、英語教育・英会話は欠くことのできないもの、市民の文化にすべきものと考えます。

その先導として、小・中学校の英語教育の充実、推進についてお聞きします。

1、どの教科にも言えることですが、学習にとって一番大切なことは「楽しむ」ということです。子供たちへの英語教育で最も重要なことは「英語は楽しい」と思わせる環境づくり、英語に興味を持ち自発的に英語に触れようとする環境づくりです。英語教育が本格的になって間もないですが、学校の現状、児童生徒の現状をお聞かせください。

2、英語教育で担任教師や専任教師の英語力、その研修環境、教師全員の英語への関心度、ネイティブスピーカーとしての外国語教師・外国語指導助手ALTの存在と関わり方、地域人材の活用等が重要です。それらの人材・教育体制の現状並びに今後の方針をお聞かせください。

3、さいたま市では市独自の英語教育「グローバル・スタディ」を実施し、授業時間数の増加、指導体制の充実、独自の教材、英語力を発揮する機会の開催等により、英語力向上の成果を上げているとのこと。

県内においては、沼津市で「イングリッシュデビュー・イングリッシュコミュニケーション・イングリッシュアドベンチャー」と題して、英語教育に対し独自の事業を展開し、藤枝市では中学卒業時に英語で簡単な日常会話ができることを目標に、ALT英語指導助手の充実した授業を展開しているとのこと。

下田市においても英語力向上、使える英語力を目指した下田独自の英語教育を立ち上げ、推進することを提案・要望いたします。お考えをお聞かせください。

第2項目として、学校施設の整備としてトイレの快適化について質問いたします。

学校のトイレ環境は、私たちの時代に比べれば改善されていますが、一般的な家庭は住環境の向上とともにトイレについても快適化が進み、大型商業施設や駅などの公共施設、一般企業の施設においても快適なトイレづくりが進められているのに比べると、学校施設では既

存施設においては長期建設年数、老朽化、改修遅延等により快適化の整備が不十分であると思われます。さらに家庭のトイレの洋式化が進む中で、学校の洋式化が十分に普及していないギャップや適切な維持管理の不足により、学校のトイレは「汚い・臭い・暗い・怖い・壊れている」の5Kとの評価があり、関係者の調査によると「汚くて臭く、和式便器が嫌だからトイレを我慢する子」や、その影響からと思われる「排せつ行為自体が恥ずかしいと無理に我慢する子」、「からかわれるので学校ではトイレに行きたくない考える子」等が見られ、子供の便秘増加など健康を損なうおそれが指摘され、中学においては大切にしない場所として、しばしばトイレの破壊行為が問題になるとのことです。また、全国の学校職員を対象とする「学校施設に対する満足度調査」では、最も多く不満を感じているのがトイレを含む水回り、全体の約6割に達するとのことです。

学校のトイレの改修において、単に排せつの場所として「汚い・臭い」等の問題を改善するだけでなく、衛生面・健康面の改善とともにトイレを「明るく楽しい場所」に変えていく取組により、例えば荷物置場やプライバシー性の高い個室ブースを設置することにより、「子供たちの憩いの場・落ち着く場」とする例や、ベンチや対面式の手洗いを設置することにより「子供の交流の場」とする例があるとのことです。

トイレの改修を実施した学校においては、「子供たちの間に快適になったトイレを汚さない、大切に使うという意識が生まれた」「子供たちが今まで以上に清掃を一生懸命に行うようになった」との声も聞かれるようになり、トイレを大切にするという意識は学校施設全般を大切に使うという心も育てているとのことです。これらを踏まえて、学校のトイレの快適化への取組についてお聞きします。

1、下田の小・中学校のトイレの洋式化・洋便器率は、令和5年9月1日現在で65.9%、県平均60.8%を上回っていますが、国は2025年度までに「95%洋式化」を目標にして、学校施設環境改善交付金・大規模改修トイレ改修事業の国庫補助を行っています。洋式化については、子供たちがふだんから使い慣れている環境、洋便器にすることが第一ですが、和式便器の欠点として、その形状から尿便の飛散や臭気の拡散を防ぐことが困難であり、和式便器周りの床の汚れがひどく、衛生面からも感染リスクが高いとのことですので、これらの改善のためにも洋式化が必要です。

また、洋式は和式に比べて使用水量が少なく水道費の軽減にもなるとのことです。これらを踏まえ、今後の洋式化への計画についてお聞かせください。また、子供たちや保護者の方々、教職員の方々の洋式化への要望や評価をお聞かせください。

2、学校のトイレの清掃は、これまで水で流す「湿式清掃」が主流であり、それに対応した床等の造りになっています。しかし、水できれいになったように感ずる湿式清掃の床からは多くの菌が検出され、タイル目地へのアンモニアの染み込みが悪臭の原因になっているとのことです。

専門家の見解として、湿式清掃は感染防止の視点からは極めてリスクが高く、子供たちに清掃をさせるべきではなく、衛生面や臭い防止の観点から床を乾いたまま清掃できる「乾式清掃」に変更し、衛生管理を含む清掃教育を適切に行った上で、子供たちに清掃をさせるべきとのことです。これらにより洋式化と同時に乾式化が求められていますが、整備に対する考え、方針をお聞かせください。

3、快適化としてトイレの照明をもっと明るくする必要があります。同時にコスト削減のためにLED照明や人感センサー式照明に切り替えることも工夫と思います。また、明るくて楽しい雰囲気のために壁や床の色や素材、デザインも必要と思います。手洗いにおいても衛生面、感染予防として自動水栓も必要と思います。身障者や性的マイノリティーの児童生徒への対応も必要と思います。これらの改善に対する対応をお聞かせください。

4、学校施設は授業参観や発表会、地域に開かれた学校としての各種イベントの開催へ、保護者の方々や地域の方々が来訪し、大人のトイレの使用の頻度が高まっていますので、教職員を含め大人の使用の想定も必要です。また、学校施設は災害時の指定避難所となっています。多種多様、多数の皆様が学校のトイレを使用することになります。

過去の災害時の反省として、和式トイレが高齢者や体の不自由な方々にとって避難所生活の大きな支障になったとの報告があります。能登半島地震においても避難所のトイレの問題が大きな課題となりました。避難所として体育館が使用される頻度が高いですが、下田市の学校体育館併設のトイレの洋式化は100%とのことです。よい状況ですが、災害の状況や避難者の数によっては学校全体のトイレの使用も必要になります。また、高齢者や身障者、乳幼児連れや妊婦の方々への対応として、バリアフリー化や多目的トイレの設置も必要となります。これらの状況を踏まえたトイレの改善について、お考えをお聞かせください。

第3項目として、学校施設である体育館の空調について質問いたします。

体育館はこれまで空調、エアコンを設置しないことを前提として建設され使用されてきました。しかし近年、気候変動、年平均気温の上昇により、最高気温35度以上の年間日数は年々増加し、学校現場における熱中症事故の発生件数は増加傾向にあるとのことです。

体育の授業や部活動、集会等において直射日光を避けるために体育館を使用しますが、逆

に夏場の体育館は直射日光で建物が温められ室温が高温になりやすく、窓を開けて換気を行っても外気温が高く熱が籠もりやすく、より高温になりやすく熱中症のリスクが高まるということです。また、体育館は災害時に避難所としての使用があり、災害関連死防止も含め避難所の空調化・快適化が必要になります。これを踏まえて質問いたします。

1、令和4年9月1日現在の小・中学校の空調、エアコン設備の設置率は全国で11.9%、静岡県で1.9%、下田市では未設置となっておりますが、東京都では97.3%であり、文科省では学校施設環境改善交付金・空調整備事業の国庫補助により整備を推進しています。小・中学校体育館の空調の整備方針、児童生徒、保護者、学校現場の要望等をお聞かせください。

2、小・中学校の体育館は、地震・津波の発災時や台風・豪雨による風水害時に指定避難所として使用します。夏場の避難所、特に風水害は夏場や残暑の秋口に頻度が高く、避難所として大人数の密集する空間は温度と湿度が上昇しやすく、避難者には幼児や高齢者等体力のない人が多く、熱中症のリスクが高くなる状況です。また、高温多湿の夏の避難所は、布団や床のカビ発生や夜間に窓を開けると蚊などの虫の侵入、暑さで十分な睡眠・休息が取れない等、慣れない避難生活の大変さに加え、よりストレスを与え、肉体的・精神的に不健康な状況をつくります。

体育館の空調化により避難所の快適化が必要と思います。また、停電によるエアコンの運転不能に対する発電装置の設置も必要と思います。防災対応、避難所整備としての方針、対応をお聞かせください。

第4項目として、9月議会で私が一般質問しました項目について、これまでの進捗と新年度への進展についてお聞きいたします。

1、「うみ」について、通年型の海の魅力化、海の観光化の推進についてお聞かせください。

2、「やま」について、鳥獣害対策、環境整備としての里山整備、獣と人間の共生・すみ分けのための緩衝帯整備の推進についてお聞かせください。

3、「まち」について、町なか活性化への「食をテーマの新たなイベント」の推進についてお聞かせください。

4、「ひと」について、地域おこし協力隊、集落支援員の各分野・各地域への積極的採用の推進についてお聞かせください。

以上、雑駁ですが、提案、要望を含め私の一般質問といたしますので、新年度へ向けて生かしていただけるよう、気概を持って回答いただきたいと思います。

以上です。

○議長（中村 敦） 当局の答弁を求めます。

教育長。

○教育長（山田貞己） 私からは英語教育についてお答え申し上げたいと思います。

最初に英語教育の学校の現状、児童生徒の現状ということでしたけれども、楠山議員がおっしゃるとおり現在は3、4年生が週1時間、それから5、6年生については週2時間、3、4年生についてはコミュニケーションを主体として、それから高学年については発達段階に配慮して授業が進められています。各單元には英語でのやり取りを、先ほどから議員がおっしゃるとおり楽しみながら英語で関わり合う、コミュニケーションでの楽しさを感じられるように授業を進めております。

自分の好きな場所ですとか、ぜひ行ってみたい国を英語で紹介する、または尋ね合うなど、様々な国のものですとか、こと・文化などにも触れてよさを知ったり理解を深めたりする、そんな内容が学年の発達成長段階に合わせて各自盛り込まれております。英語を学ぶだけではなくてコミュニケーションを楽しむと、そういう児童の様子がうかがわれております。

英語に興味を持つという点では、玉川大学との英語教育の連携の取組が挙げられます。春と夏に玉川大学の学生が小学校に入って、担任とも連携しながら英語への興味・関心を高めていけるような授業が再開できています。そのことがきっかけで英語をもっと話せるようになりたい、もっと学んでみたいとなることを念頭に置いて取組を進めております。

この取組が進学する中学校にも生かされて、授業にも変化が見られるようになってきています。楠山議員がおっしゃるように、中学校の授業はほぼ全て英語で進められております。場面を想定しながら生徒が必要感を持って自発的に英語で表現するよう、授業が工夫して各教科担任から進められています。

それから英語教育における人材育成、教育体制というお話でしたけれども、小学校に外国語活動が取り入れられて、平成20年頃からは全国で計画的に実施されて、賀茂地区それから下田市の教員も参加してきています。教員の英語への関心、指導力の向上は確実になされてきていると感じております。これは下田市賀茂地区だけではなくて全国的にそうなんです、LETSといいまして楠山議員も御承知かと思えますけれども、Licence for Elementary Teaching in Shizuokaということ略してLETSと表現しています。LETS認定といいまして、豊かな事業実践経験を有する教員を対象に、静岡県小学校英語指導資格認定というものでして、外国語を指導する教員を育成してき

ています。

今はもう大学生、それから若手教員はかなりこのノウハウについてはマスターしてきているという現状があって、LETS認定というのは今年度あたりで終わるという話を聞いています。今年度、玉川大学との英語教育連携を柱にした英語力向上プロジェクトの一環として、玉川大学への研修視察に出向いた教員もおりました。今後もこのプロジェクトの中で、玉川大学との教員研修等も複数参加できるように工夫を重ねていきたいと、そのように考えております。

それから英語教育に係る小中連携、また高校も関わってくるかと思いますが、義務教育から高等学校に進学するとしたときに、やはり学びの系統性も踏まえて小・中・高で連携していくこと、これは今後の課題であるというふうに考えております。

高校生の、昨日も少しお話し申し上げましたけれども、吹奏楽部ですとか市内イベントへの参加、これはこれからになります。蓮台寺地域への貢献活動とか、それから連携、下田市内での高校生の活動の場が、ここ数年広がりを見せていることを感じております。英語を通しての連携も今後さらに深められることとして期待が持たれているところです。

未来の下田創造プロジェクトという協議会をここ3年間で数十回開いておりますけれども、高校教員も参加して開催が定着してきています。外国語活動、それから外国語の導入でリスニングの力が上がってきていると先ほど楠山議員もおっしゃってましたけれども、英語を使って積極的に活動しようとする姿が増えているという声がある一方、興味・関心の二極化、これは想定されていることなんですが、中学校英語からのスタートでの苦手意識を持つ生徒の姿もないとは言えないというのが現状です。このような課題を解決するためにも、垣根を越えた小・中・高の連携が必要だと考えておりますので、今後も高校を含んだ協議の可能性について探っていきたいと考えております。

それから市独自の英語教育ということですが、下田市ならではの取組としては皆さん御承知のとおり、楠山議員もおっしゃったとおり、黒船交流それからニューポート交流がありますけれども、今年度は多少の違いはあるものの、コロナ禍以前のように実施することができるようになっております。外国語活動、英語科の授業が本格的に実施されていることもあって、黒船のこの交流活動のおかげもありまして、これまで以上に子供たちは物おじせず、英語での会話や、そのほかコミュニケーション活動にチャレンジしようとする、そんな姿が増えていると感じています。

授業での学習がそこで終わらず、実際にそれを使ってみることで英語への関心はさらに高

まっています。ニューポート交流で帰ってきた生徒は、確実に英語への興味・関心を高めておりますし、多様な文化も受け止めて尊重しようとする姿勢も見られます。今後、その貴重な体験で得たものが個人にとどまらず線で結ばれて、さらに面となってほかの子供たちに広まっていく、そういうことが大切だと考えます。

また、中学校での英語の授業で地域人材をお招きして、英語はもちろんですが国際理解の視点も踏まえて授業をしていただいたこともあります。今、中学校で実施しておりますコミュニティスクールも、来年度は小学校7校においても導入していく予定で進めていますけれども、今後も下田市の豊かな人材に御協力いただきながら、英語それから総合的な学習の時間を一層充実させていくことが肝要であると考えております。

私からは以上です。学校施設の面については担当課長から申し上げます。

○議長（中村 敦） 学校教育課長。

○学校教育課長（佐々木雅昭） 私からは、学校施設の整備としてのトイレの快適化という御質問に対してお答え申し上げます。

まず現在の状況でございますけれども、令和5年度の事業終了時点での市内小・中学校におけますトイレの洋式化率は66.8%となりました。前年度比較では0.9ポイント向上している状況でございます。

今後も洋式化の事業を継続しまして、洋式化率の向上を目指したいと考えておりますけれども、一方では単式の学級が増える中で、ほぼ使用されていないトイレも発生している状況もありますことから、今後も学校と協議をしながら児童・生徒を中心に使用頻度の高いトイレの洋式化を優先して行ってまいりたいと考えております。

次に、トイレの乾式化ということでございます。

御指摘のトイレの乾式化でございますが、小学校低学年の児童の行動ですとか、男子トイレ全体の構造を考えますと、湿式の方が清掃しやすいなどといったことも考えられますことから、トイレの使用頻度等も確認しながら学校側とも協議いたしまして、例えば大規模改修ですとか長寿命化といった時期に合わせて検討していくことが望ましいのではないかと考えているところでございます。

次に、LED照明ですとか人感センサー、また自動水栓といった対応についてでございます。

LED照明につきましては、現在各教室のLED化を進めている最中でありまして、あわせてトイレ照明の状況の確認と改善を学校側と調整してまいりたいと考えております。ま



た、自動水栓につきましては、既に一部の学校におきまして簡易なアタッチメントを装着することによりまして導入しておりますので、こうした器具の活用も含め、今後学校とも協議してまいりたいと考えております。

次に、トイレのバリアフリー化でございます。

現在、静岡県の市町村振興協会の助成金を活用いたしまして、トイレの洋式化を進めておりますけれども、この助成金を活用したトイレ洋式化におきましては、既に手すりのほうは設置済みとなっておりますが、一定のスペースを必要とする多目的トイレにつきましては、現在のトイレスペースでは必要な面積が得られないことも考えられますことから、校舎全体の洋式化を進めつつ、利用頻度の低いトイレを多目的トイレに改修するなどの検討が必要になってくるものと考えているところでございます。

最後に、学校施設である体育館の空調の改善についてということでございますが、議員御指摘の国庫補助の補助率の優遇措置につきましては、体育館の断熱性の確保が要件となっております。エアコン設置工に加えまして、壁面や天井の断熱工事が必要となります。工期や費用ともに相当な時間と費用を要するものと想定をされるところでございます。

また、直接的な設置要望といったものは今のところございませんけれども、近年の気温の状況を考えますと、学校の熱中症対策という観点といたしまして、夏場に移動式クーラー等のリースを行うなど、何らかの対策の必要性は感じているところでございます。

私からは以上でございます。

○議長（中村 敦） 防災安全課長。

○防災安全課長（土屋武義） 私からは、学校トイレの快適化についての中で、学校を避難所として利用した際の校舎内の洋式トイレ、多目的トイレの整備に関して、防災安全課としてどう整備を進めていくかという御質問にお答えいたします。

校舎内の洋式化されているトイレにつきましては、断水時でも使用できるように使い捨て携帯トイレを使用して対応する予定でございます。防災安全課といたしましては、避難所ごとの想定避難者数に応じた災害用トイレの確保を進めており、既設の洋式トイレ数で不足する分につきましては、組立て式トイレの備蓄やマンホールトイレの設置を進めることで、トイレの必要数を確保できるように整備を進めております。

続きまして、学校施設である体育館の空調についての中で、体育館の空調化により避難所の快適化が必要ではないか、また、停電時によるエアコンの運転不能に対する発電装置も必要だと思うが、防災対応としての方針、対応について伺うという御質問でございます。

避難所の環境改善につきまして、近年の気候変動の状況からも避難所の熱中症対策は必要であると考えております。しかしながら、既存の体育館へのエアコンの設置は高額な費用を要するため、慎重にかつ計画的に進めるべきと考えております。防災安全課といたしましては、現在、大型扇風機を避難所用に備蓄しております。その他の対応策といたしまして、スポットクーラーとテントを利用したクーリングシェルターの備蓄や、涼を得る屋外ミストシャワーの設置等を検討しております。

停電対策につきましては、現在避難所となる体育館に電源切替え装置を設置するとともに発電機を備蓄しております。

私からは以上でございます。

○議長（中村 敦） 観光交流課長。

○観光交流課長（佐々木豊仁） 私からは、通年型の海の魅力化と食をテーマの新たなイベントの進展についてお答え申し上げます。

通年型の海の魅力化、海の観光化の推進につきましては、し～もんを通じた下田の自然のすばらしさを生かす自然体験プログラム事業を継続するとともに、新年度には推進組織である下田市自然体験活動推進協議会に、グローバルCITYプロジェクトによるエコツーリズム、マリンスポーツ等のアウトドアツーリズム、下田市スポーツ合宿・大会誘致推進協議会と連携したスポーツツーリズム、文化・歴史ツーリズムなどの関係者を新たな委員に加え、通年型の海の魅力化、観光化への取組を推進してまいります。

また、サーフタウン構想とも連携し、ビーチの魅力を伝えるためサーフィンやライフセイビング等のスポーツ、フラダンス等の文化、自然観察等の教育といった多面的な取組を推進し、年間を通じた海の魅力の向上をさらに図ってまいります。

続きまして、食をテーマの新たなイベントの推進についてお答え申し上げます。

ふじのくにガストロノミーツーリズム推進方針に基づく産官学民を構成員としたガストロノミーツーリズム推進協議会に加盟しており、情報共有とともにガストロノミーツーリズムの推進を図ってまいります。また、カジキを使用した料理の開発等を目的としている下田市Sea級グルメ事業についても、関連団体と連携し、市内飲食店等への普及促進に向け協議、検討してまいります。

私からは以上でございます。

○議長（中村 敦） 産業振興課長。

○産業振興課長（糸賀 浩） 私からは、9月の一般質問の新年度への進展についての中の、

里山整備、緩衝帯整備の推進についてと、食をテーマの新たなイベントの推進についてお答え申し上げます。

最初に、里山整備、緩衝帯整備の推進についてでございます。

人工林につきましては、間伐事業と併せ今年度から行っております椎原・北湯ヶ野の地区における森林経営管理権に基づく整備業務を継続するとともに、新たに相玉・横川地区における整備業務を行うための意向調査に取り組んでまいります。また、より人の生活圏に近い天然林につきましては、整備箇所の検討、所有者との協議などの手続を整理し、少しでも早い事業化に向けて検討をしてまいります。

次に、食をテーマの新たなイベントの推進についてでございます。

食をテーマの新たなイベントの推進につきましては、昨年11月に市内の経済団体や事業所が中心となって組織する実行委員会が主催し、日本の地で初めてウイスキーが飲まれたとされる下田の歴史と、国産ウイスキー誕生100周年を記念したイベント、下田ウイスキーフェスが2日間にわたり開催されました。好評であったことから、令和6年度も継続開催を予定しているとのことでございます。

このように、民間からの提案やアイデアを生かしつつ、まちの活性化に向けて事業所、商工会議所、料理飲食組合や観光協会等の関係団体と連携をし、現在行っているイベントの拡充等も視野に入れながら協議、検討をしてまいります。

私からは以上です。

○議長（中村 敦） 企画課長。

○企画課長（鈴木浩之） まず、地域おこし協力隊の関係でございます。地域おこし協力隊につきましては、現在下田市で4名の隊員が活動を行っております。隊員の受入れにつきましては、市内で生じている地域課題の解決に地域おこし協力隊の受入れが必要であるとした場合に関係課、関係者で協議を行い、現在積極的に採用を進めているところでございます。また、採用後は採用された職員隊員が活動に専念できるように、また、隊員活動終了後、定着に結びつくように業務面、生活面の両面からサポートを行っているところでございます。

現在、5月の採用に向けまして、下田市観光協会において観光情報の発信力強化とイベントの企画運営の充実強化を図るため、隊員として2名、生涯学習課においてスポーツを通じたまちづくりを行う隊員の1名、計3名の募集手続を進めているところでございます。さらに来年度は、中心市街地活性化部門、移住コーディネーター部門におきましても、9月以降の採用に向けて現在検討を行っているところでございます。今後も必要な分野につきましては

積極的に受入れを行っていきたいと考えております。

集落支援制度でございますが、当市におきましては人口減少、少子高齢化、隣組加入率の低下等が進行しておりまして、今後将来に向けた地区の維持に対する不安の声が高まっていることは承知をしております。

令和4年度、令和5年度につきましては、地区活動への女性の参画促進ということを目標といたしまして、各地区の区長様を対象とした研修会を開催してまいりました。また、本年1月に発生した能登半島地震では、人口減少等の課題を持つ半島地域において、発災前の備えから発災後の避難、復旧、さらに復興に至るまで、改めて地域コミュニティーの重要性が認識されたところでございます。地域住民の方が主体となって、集落の点検や集落の在り方について検討を進める必要があると再認識しております。

集落支援制度はこうした様々な地域課題に対応する有効な制度と考えております。本年度、市役所の内部におきまして検討を行っているところでございますが、本制度の適正かつ円滑な運用に向けましては、現在の区制度との調整、地域ニーズの把握、集落支援員の職務の明確化、人材の選任方法等について十分な制度設計を行う必要があると考えておるところでございます。

来年度、今後は地域課題の解決や集落支援の導入に向けまして区長会とも連携を取り、先進事例の調査や制度の研修、さらには先進地の視察等を行いまして、具体的な導入に向けた検討を進めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（中村 敦） 8番 楠山俊介議員。

○8番（楠山俊介） 答弁をありがとうございます。

ちょっと重複になりますが、もう一度私のほうも整理をしながら、簡単にもう一度質問をさせていただきたいと思っております。

英語教育につきましては、先日地元の朝日小学校の3年生と6年生の英語の授業を見学させていただきました。明るくのびのびと楽しい雰囲気接しまして、英語力の向上を本当に期待を持たせるもので安心したところではあります。私たちの時代にはなかったことで、随分と教育も進み、またどんどん向上しているなど思っているところであります。

そういう中でですが、この状況をしっかりとした成果に結びつけるためには、当然、学習指導要領に沿ってしっかり行うことも重要なことでもありますけれども、同時に下田らしい誇れる英語力にするために、より充実した教育体制を加えていくことが必要ではないのかなと思

います。

先ほど紹介しましたさいたま市、また他市町の事例をぜひとも調査分析をして、これらを参考にしてぜひとも下田らしい英語教育戦略を打ち出していただいて、子供たちの今頑張っている、この頑張りを成果に結びつけるような、そういう体制をつくっていただきたい、そういう教育を行っていただきたいと思うところであります。

例えばアウトプットする場所ということで、さいたま市のほうではイングリッシュキャンプというようなことで、2泊3日、3泊4日というようなことでALTと一緒に全て英語だけで生活しコミュニケーションを取るというような、そういう場所を設けたり、英語劇を披露したり、あるいは英語のディベート大会を中学生が行ったりと、また下田もニューポートのほうへ、人数としては4名ほどですが行っていますが、交流都市の外国へ派遣をするというようなことをしているようであります。

その中で学校の先生とちょっと話をしましたら、なるほどと思ったのは黒船祭のときに米海軍の皆様が小学校で子供たちと交流をするという場をつくっていただいています。先生たちからすれば、それをやることの価値は見いだしながらも結構準備には大変で、時間を取られるので少し大変ですよとは言いながら、子供たちも楽しんでいるのでやりたいんですが、逆に時間が短くてどうも消化し切れないところとか、子供たちがもっと時間があつたらもっと楽しく、もっと有意義だろうと思う状況もあるというようなことですので、その辺も両方はなかなか、同じ事情ですけれど上手にやっていると、下田らしいそういうアウトプットの場所ができるのかなというようにも思いますので、よろしく願いをいたします。

それでまた英語教育だけに限りませんが、教育長のほうからもありましたけれど、小中の連携、それから9年間の教育の連携、教育体制、また高校を含めた小中高一貫の教育体制、地元の高校の在り方や高校魅力化にも積極的に関与していただいて、小学校、中学でつくられたものが高校へいってさらなる形で成果が出るような、そういう教育の連携体制をつくっていただくことも関与いただきたいと思っています。これらをちょっと含めて、再度教育長から思いをお聞かせいただければと思います。

○議長（中村 敦） 教育長。

○教育長（山田貞己） 小学校への参観、ありがとうございました。子供たちの意欲的で本当に元気な姿を見ていただけたんじゃないかなと思います。総務文教委員会の議員の皆さんにも市内4つの小学校の授業を見ていただいたところですよ。小学校外国語活動、外国語を見ることのできた学校もありましたので、同じように感じてくださったんじゃないかなと思います。

下田らしい特別で独自の要素という、そういうお話をいただきましたけれども、先ほども申しあげましたけれども下田市は黒船祭での、その水兵さん方との交流、それからニューポート、この交流が伝統的に継続したものになっています。

交流活動として平成2年から32年になるでしょうか、かなり長い根づいたものになってきてます。外国語活動については10年ほどぐらい前から試行的に取り入れられて、教師も指導法に本当にその当時は苦勞していたわけですがけれども、平成29年の告示の指導要領には外国語活動を取り入れられて、外国語を取り入れられて数年が経ちます。

先ほど申しあげましたようにリスニングの力、それからコミュニケーション力と申したほうがいいのか、それともコミュニケーションに対する抵抗がなくなったという、そういう確実に向上しているという旨の話を先ほどしましたけれども、授業を参観してもその向上を感じ取れます。

小学校の英検の受験者、これは補助をいただいでまして、昨年度50名だったのが今年度は60名ということで、この興味・関心の高さ、右肩上がりもまた期待できるところかなと思っています。

学校の中でも核になる授業で、活動で学んだり経験したことが、小学生では日常生活、それから中学校では社会生活、そういったところで出会う場面、場面で生かされたり生かしたり、そういった力が理想だと思っています。

下田の子供には幸いにも先ほどから申しあげているとおり、他の地域にはなかなかないチャンスをいただいていると思っています。開国のまちとして黒船祭、ニューポートをさらに充実させること、工夫を重ねて別のバージョンを考案することも可能な限りありかとは思いますが、取組によってはバージョンアップできるものを生み出していくことも考えられます。

グローバルCITYプロジェクトの取組もありますし、先ほど申しあげました玉川大の活動、交流もあります。さらには新たに、昨日もちよっと話題に上がりましたがけれども、国際色豊かな上智大学との協定も結んでおりますし、何より地域と密着した地域から支援をいただけるコミュニティスクール、今朝も実はある地区の方から手作りの竹ぼうきをいただきまして、小学校に持って行ってくださいということで、非常に気持ちよく今日ここに参加しているわけなんです、コミュニティスクールで協力可能な人材リストを131人、131組といったほうがよいかもしれませんが、そういった方々が市内で登録されています。その中には外国語活動に関わり得る人材も存在すると捉えています。

先ほど、これは繰り返しになりますが、今年度中学校のコミュニティスクールに加えて、

7つの小学校、そこの仕組みに参画していきますので、そうした資源を吟味して有効に生かして進めていかれるものと考えております。

ただ、ここで留意しなければいけないのは事務局が急がないこと、こちらが急ぐだけですと子供たちをはじめ現場が引きずられて置き去りになってしまいますので、議員が言うくださるようにより一歩一歩進めるという姿勢で知恵を出して、教育委員会としてチームで臨んでいきたいと思っております。

高等学校の在り方については、昨日も岡崎議員の答弁で重複しますが、県教委が主導で協議会を開催し、参加する機会をいただいておりますので、そこで情報共有する機会もあります。少子化に伴って地域とともに歩むという形が今の高校にも求められているようになってきていますが、ここ数年、これは繰り返しになりますが、下田高校も稲取も松崎も分校も地域の行事への参画が増えてきている。そういったところから、これから共に歩める姿を想像できると思っております。小・中学校が開催しています研修会、プロジェクトも高校の教員に参加していただくようにもなってきましたので、幼・小・中に高校を加えた連携体制が望ましい方向でできつつあると私は考えています。

繰り返しになりますが、開国のまち、開国の歴史という下田市にしかない、これまで市民の皆さんで大切に耕されてきた土壌がありますので、幼・小・中、そこは強みにしていきたいと考えていますし、高校とも共有してまいりたいと思っております。

お答えになっているかは分かりませんが、私からは以上でございます。

○議長（中村 敦） 質問者にお尋ねいたします。

ここで休憩したいと思います、よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 敦） 11時5分まで休憩いたします。

午前10時54分休憩

---

午前11時5分再開

○議長（中村 敦） 休憩を閉じ会議を再開いたします。

8番 楠山俊介議員。

○8番（楠山俊介） 教育長には再度の答弁をありがとうございました。御理解はいただいているところでございますので、共に一生懸命にいい教育環境をつくっていきたいと思っておりますので、よろしく願いをいたします。

続きまして、トイレの快適化、体育館の空調化についてですが、その必要性につきましては担当課は十分理解していると理解しておりますし、その整備には多額な財政負担が生じるということで、そのために進捗が遅い状況であることも理解しているところであります。しかし今はそのような状況であるがゆえに、しっかりとした計画の下に早い対応を順次進めていくことが必要であると思っておりますのでよろしくお願いをいたします。

また、平時においては教育環境整備として児童生徒、教職員、保護者の皆様を主役とし、また災害時、緊急時においては避難所として利用する避難の皆様を主役とし、表裏一体で整備をすることが必要ですので、その対応、その推進に関しましては、日頃より常に学校教育課、生涯学習課、防災安全課、福祉事務所等、関係各課で連携を強化し、財政の問題も含めてより具体的に対応していただくよう要望するところであります。

通年型の海の魅力化、観光化につきましては、夏期の海水浴客が減少する中で、一年を通して四季折々の海の魅力、海の活用を構築する、発信することは、下田の観光、下田の経済にとって重要です。これに関しましては、観光交流課は以前より十分に把握していることを理解いたしますし、先進例として宮崎の青島のビーチパークの事例を検討されることは承知しております。ぜひともこれらを積極的に、市の重要テーマとして対象地区への推進をよろしくお願いをするところであります。併せまして、その重要な整備として日本財団の渚の交番の導入、伊豆半島で初めての施設として推進していただきたいと思っております。観光交流課長より渚の交番に対する取組をお聞かせください。

○議長（中村 敦） 観光交流課長。

○観光交流課長（佐々木豊仁） 渚の交番プロジェクトにつきましては、以前過去に白浜大浜海岸での整備の検討をしておりましたが、関係者との調整がつかず頓挫した経過がございます。

先ほど答弁したとおり、通年型の海の魅力化、観光化の推進につきましては、下田市自然体験活動推進協議会にて検討をしていきたいと考えておりますので、下田市夏期海岸対策協議会と連携して渚の交番プロジェクトも含めて、一年を通じて誰もが楽しめる海づくりを目指していきたいと考えております。

以上です。

○議長（中村 敦） 8番 楠山俊介議員。

○8番（楠山俊介） ありがとうございます。渚の交番に関しましては、なかなかまだ市民の皆様あるいは関係者の皆様に周知されてるとは言い切れないところがありますので、ぜひと



も折々に渚の交番について説明いただいて、その必要性を推進していただきたいと思います。

里山整備、緩衝帯整備についてですが、鳥獣害対策にとって里山整備、人と獣のすみ分けを行う緩衝帯整備というのは重要な対策であると言われておりますけれど、その大変さによって後回しにされているという状況であります。しかし大変だからこそ早く始めていかなければならないということでもあります。下田市鳥獣被害防止計画にも、耕作放棄地の解消に努め緩衝帯の整備に努めると明記されております。ぜひとも早く実行に向けての方策を始めていただきたいとお願いします。

食のイベントにつきましては、町なかの活性化にはまず食により住民の皆様、観光の皆様にもちなかの楽しさを存分に味わっていただくことが必要だと思っております。そのために既存の食のイベントやおもてなしを充実していくことと同時に、新たな食のイベント、おもてなしを仕掛けることが必要だと思っております。その一例として、下北沢のカレーフェスタは下田にとって参考になるものと考えておりますので、ぜひとも検討いただき、商工会議所、観光協会の活動を喚起していただきたいと思っております。

地域おこし協力隊、集落支援につきましては、新年度において地域おこし協力隊を増員されるということは評価するものであります。ありがとうございます。しかし、必要としている部門や業界、地域はまだまだあり、今後のこの充実がまちづくりの重要な手法となると思っております。ぜひとも担当課におきましてはアンテナを高く広く張って、きめ細やかな対応をしていただきたいと思っております。同時に重要な役割は、必要とされている側と応募採用の隊員との間に入って、両者に寄り添い課題解決のために共に活動するということだと思います。成果を上げている市町はこの能力に長けているところであります。ぜひとも市役所総出でしっかり対応を見つけていただければとお願いするところであります。また、集落支援につきましては、課長がおっしゃるとおり制度設計の必要性もありますし、また地域の理解度、受皿づくりというものもありますが、順次よろしく願いをいたします。

では結びになりますが、市長に私の一般質問に対しまして総括としての見解、新年度への対応についてお伺いしたいと思います。

昨日披露いただきました施政方針、所信は市の課題を網羅し、解決に向けた思いを表現され評価するものであります。私の一般質問に対する関連のワードも多々ありました。

簡単に抜粋しますと、英語教育につきましては、国際社会で活躍できる人材、国際性、地域性のグローバル学習の機会を数多くつくる、コミュニケーション能力を持った児童・生徒の育成。また、学校整備、トイレ快適化、体育館空調については、事前の防災的取組、能登

半島地震から得た教訓。また、通年型の海の魅力化、観光化につきましては、美しい海をはじめとする本市ならではの新しい観光、美しい海を楽しめるような環境整備を進める戦略的な観光プロモーション、通年型観光を目指す。鳥獣害対策、里山整備につきましては、野生鳥獣被害等の課題に対し、基金を有効かつ積極的に活用、健全な森林の維持並びに里山の振興及び環境保全。町なかの活性化、食のイベントについては、まちの商店がつながる仕組みづくり、下田商工会議所と連携した中心市街地活性化、新たな下田ブランドの確立。地域おこし協力隊、集落支援については、地域リーダーを育てる産業人材育成、農業の担い手確保、地域づくりの様々な担い手等々たくさんありました。

これらについては私の一般質問の内容、提案、要望に対して一つ一つ具現化していただくことをお願いするものであります。新年度への熱い思いを含めまして、市長より総括の答弁をお願いをいたしたいと思っております。よろしくお願いたします。

○議長（中村 敦） 市長。

○市長（松木正一郎） 元市長からのいろいろな幅広い御質問でございますので、後輩の私としましてはこれから、まだまだ未熟でございますけれども、それなりに考えたことを申し上げたいと思っております。

今の御質問の趣旨としましては、4点の具体的な施策を掲げつつも、それをトータルで市長としてどうするのかと、こういうことであろうかと思っております。4点というのはこれまで質疑がありました英語教育、トイレ、体育館の空調、それから海・山・まち・人のこの4つだろうと思っております。それぞれグローバルとか新しい観光ですとか、つながるとか攻めの防災、こういったところに全て関連するものだと感じております。それを総合して私のほうで御答弁申し上げます。

今申し上げましたように、施政方針で重点方針として掲げたのが4つの項目、つながる、攻めの防災、新しい観光、グローバルCITYプロジェクト、この4つでございます。これについて、やはり具体的に事業を展開するということが重要であろうということが議員の御指摘であろうと存じます。

例えば、つながるといのは新しい価値をつくりたい、そのためにはやっぱり掛け算が必要で、その掛け算はその仕掛けが必要になる、あるいはその場が必要になる。プラットフォームとかいう言い方をする場合もあります。そのプラットフォームとして、例えば上智大学と連携協定をしたと。この連携協定に基づいて、昨日も申し上げましたように子供たちを大学へ連れて行って、大学というのはこんなところなんだと、見たことのない子供たちに、私

も松崎町というところで子供の頃は育って、大学はどういうところだろうと想像がつかなかったんです。やっぱりそのキャンパスというところに連れて行って、そこで立派な施設があったり、いろんな学生がドイツ語の辞書を持って歩いていたりするような風景を見るというのが大切だろうと思っています。

このつながりで言いますと、下田市にとって恐らくアメリカとのつながりが最も大きな資産であろうかと思っております。そういう意味でも英語教育といったことはもちろん重要でございます。今後より深さを増していく、深化させていくということが重要であろうと思っておりますので、例えばウェブによる交流、取りあえずコストのかからない交流というものもありますので、こうしたものも活用しながら英語教育にもそれが役立つ、そういったグローバルなつながりというものを進めていきたいと思っております。

併せてグローバルのほうも申し上げますと、下田のその価値を磨き高めるといって、そしてそれをできれば世界レベルにしたいと考えておりますので、黒船祭、この今般の黒船祭を170周年の黒船祭と位置づけまして、ちょっとそれは少しずつですけども価値を加えていって、この黒船祭を日本の中でも有名なものにしたいと考えています。

下田市の子供たちには黒船祭といったら有名で、子供たちは楽しみにしてるんですけど、残念ながら県の中中部に行ったら黒船祭なんて誰も知りません。例えば静岡のほうの人は知らない、言葉さえ知りません。これだけコストをかけて、そしてみんなで一生懸命やって、しかも本当にすごいお祭りなのに知られていないというのは、やはり様々なところに私たちはやり残しているところがあるだろうというように思っています。これをこの1年間をかけて、リオのカーニバルほどにはならないかもしれないんですけども、やっぱりよさこいとか阿波踊りとか、あのように日本の中の有名なお祭りの一つになるぐらい、黒船祭というものはやっぱりその力を持っているので、私たちとして価値を高めていく、これを1年間をかけてやっていきたいと思っております。

それから攻めの防災という表現をしましたがけれども、いつか来る、必ず来ると言われているこの災害に対して、それを恐れるのではなく、むしろそれに立ち向かって平時の暮らしを豊かにしていく、それが先ほど議員御指摘の、例えば学校施設のトイレのそういった改修ですとか、空調とかそういったものに多分なろうかと思っております。私たちは防災だけを考えてまちづくりをするのではなくて、防災も考えて平時をつくっていくと、こういう視点が必要だろうと考えておりますので、その辺の施策を一つ一つ積み重ねていきたいと思っております。

最後に新しい観光でございますが、お客様の数を増やすという量的なもの、あるいはその

消費を拡大するという従来型のその観光に加え、質的にもこれからは高めていくと。昨日も申し上げましたが、例えば高級路線をつくるとか、あるいは観光に来て学んで帰る、ちょっと賢くなって帰る、あるいは地球に良いことをして帰る、もっと言うと社会貢献をして、それが観光になるというような、これまでなかったような形の観光というものを下田で提案できればと思っております。その可能性といたしましょうか、それを可能にする資源がこのまちにはたくさんある。その資源をどうやって有効に使っていくのかというところは、私たちは知恵を絞らなければならないと思っております。

限られた職員の数ですし、働き方改革とかいろいろ厳しいところはありますけれども、みんなで力を合わせてまいりますので、委員の皆様の御指導も賜ればと存じます。

以上でございます。

○議長（中村 敦） これをもって、8番 楠山俊介議員の一般質問を終わります。